

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172500274), 法人名 (有限会社 地人協会), 事業所名 (グループホーム ポランの家(ユニット1)), 所在地 (北海道余市郡余市町大川町8丁目11番地), 自己評価作成日 (平成29年10月11日), 評価結果市町村受理日 (平成29年12月29日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 rows: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jig_yosyoCd=0172500274-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ), 所在地 (札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号), 訪問調査日 (平成29年11月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①介護理念である「尊厳性の保持」の具体的なケア場面におけるその実践
・その実践とは重い認知症になったとしても在り続ける一人ひとりの尊厳性を 大事にし、人権を守っていく事にあります。 私たちはこのため、常にこの事へ自らを問い続け、愚直にそして誠実に実践してまいります。大事にし、その人らしい生活が出来るよう支援して参ります。
②運営理念である職員の「自主管理的考え方の実践」
・「自主管理的思想と協働」を実践していくためスタッフ一人ひとりが社会人として、組織人として、また福祉人として何を獲得していかなければならないのか認識し、皆でスキルの一段一段を確認しあいながら主体的に生活支援課題を発見し、実践していきたいと思ひます。

当事業所は木造2階建て2ユニットで、海に近い閑静な住宅街に立地し、近くに小学校や郵便局、スーパーなどがあり生活環境に恵まれている。介護理念の「尊厳性の保持」と運営理念の「自主管理的考え方の実践」を実現するために、管理者(法人代表)は職員の知識と介護技術の向上のため常に話し合いより良いケアを追及している。管理者は地域の草刈や除雪など日常的に地域に貢献し、利用者は町内の美化運動に参加したり音楽喫茶に参加して地域住民と交流している。運営推進会議には地域住民などが参加し、日頃の活動を通じて災害時においても協力体制が築かれている。職員は明るく親切で、利用者の平均年齢は87歳となったが、バイタル管理を行うと共に、「入居者健康ハンドブック」を作成し、広い視野から利用者の健康管理に努めている。また、脳を活性化させる音楽療法を行って持っている能力を引き出すようなアプローチを行っており、単にケア中心ではなく、生活の充実を心がけている。職員は一人ひとりの尊厳性を大切に、利用者は温かく家庭的な雰囲気の中で、職員や家族に見守られながら穏やかに笑顔で過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like user satisfaction, staff interaction, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的な介護現場での理念共有と係るケア実践の改善、またその体系化を週1回のミーティングで図っている。	介護理念「一人ひとりの尊厳性を大事にし・・・」その実践の為に会議や日常生活の中で理念を確認し、共有している。職員には”ポランの家「実践と理論」”を作成・配布し常に実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に運営推進会議の委員さんになって頂きながら、地域への発信をするばかりでなく、事業所も町内の美化運動に関わったり、お祭りなどをとおし地域住民の一人として生活するという姿勢を図っている。	町内会に加入し管理者(法人代表)は通学路の草刈りや除雪をしている。地域住民が運営推進会議に参加したり、利用者が地域の音楽喫茶で交流したり、ボランティアがバイオリンの演奏に訪れるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に(年4回)ホームの機関紙を発行しているが、入居者の方の表情、行事の写真等を掲載し認知症の方の生活を見て頂き、地域の方にその理解を深めて頂く事を図っている。発行部数家族も含め140部発行。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果について報告をしている。特にご家族アンケート結果については、分析、今後の対応を委員さんと話し合っている。	年6回定期的に開催し、町内会役員、行政、家族などが参加し、運営状況や行事報告、その時々の問題を話し合い、意見や助言得て、サービス向上に活かしている。話し合いの中で認知症への理解を深めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員さんにも就任して頂き、相互の関係性構築に努めている。	高齢者福祉課の担当者が運営推進会議に参加して助言や指導、情報を得ている。又、管理者(法人代表)は「余市グループホーム連絡協議会」の役員を務め、総会や研修会においても行政と連絡を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的場面で何が拘束なのか、「マニュアル」をファイル化し拘束の状態が発生しないように努めている。	身体拘束・虐待防止に関する考え方や、身体拘束ゼロへの手引きを作成し、具体的に何が身体拘束となるか日常的に協議し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護理念である尊厳性の保持と密接な事項であるため、特にこのことは管理者が注意を払っている。また綱領的なものも作成しこのことに努めている。また意識しない中で結果的に介護上好ましくない場面が無いよう注意を払っている。		

グループホーム ポランの家(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際場面においても制度実施者と密に連携し、具体的場面での対応を協議している。また、そのことを職員に周知し、制度理解を深めてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族のみの見学、説明ではなく、ご本人にも感覚的に安心して生活できる場所としての説明と自己決定を重視している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時、あるいは運営推進会議メンバーの家族代表からもお気持ち、意見等を聞く努力をしている。	日常の会話から利用者の意向の把握に努め、家族には運営推進会議参加時や来訪時に意見・要望を聞いたり、定期的に発行する機関誌「ポランの家通信」と家族向けに利用者の健康状態や日常生活の様子を知らせている。意見・要望があれば職員間で検討し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のチーフをととし、ボトムアップを図るばかりでなく、個別的にも出来る限り面談するようにしている。	管理者(法人代表)は職員の個別面談を行ったり、又ミーティングなどで積極的に意見を聞く機会を作り運営に反映させている。介護や看護休暇の制度を設け働きやすい環境を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の廃止、ホーム独自の看護・介護休暇制度をつくり労働環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	具体的ケア場面でスーパービジョンの実践と研修参加の啓蒙に努めている。また困難な対応が想定される場合はロールプレイを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	余市グループホーム連絡協議会(北後志管内11事業所全事業所加盟)に加盟し、新年会、事例研修会、各事業所の機関紙合本化、HPの開設(事業所の紹介、空き室情報等)、SOS模擬訓練等実施し相互の質的向上を図っている。		

グループホーム ポランの家(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、特に1週間こは安心して住めるところだということが感覚(安心できる言葉がけ等)で解るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に疾病時、将来的なことについての不安をお持ちの家族が多いため、このことについてホームの考え方を伝え安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にこのことは、入居者の方の立場に立つと、親方、感じ方も変わるという認識で、同じ生活者の関係性構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	この認識が無ければ独善性に陥る危険性があるため三位一体の関係性構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の生活歴への肯定的態度を上手に表現するよう努めている。	通院の帰りスーパーに寄って買物したり、お盆に家族と墓参りなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。 利用者の生活歴や日々の関わりの中から想いをくみ取り、家族とも協力し馴染みの関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内の人間関係の把握に努め安定した生活ができるようリビングサポートに努めている。		

グループホーム ボランの家(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居されても見舞いに行ったり、家族の相談に乗っている。これらのため退居されてから何年も経過してもお付き合いのあるご家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、言葉の真意の理解に努めている。その上に立ったコミュニケーションに努め、思いの充足を図っている。	利用者の生活歴を把握して、言葉だけでなく日々の暮らしの中から利用者の想いをくみ取り、職員の気づきをミーティングなどで共有し希望や意向に添うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族のお話し、或いは介護認定調査票(写)によってその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル管理、温度表管理という日動変化の波を把握しながらその現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な場面でのモニタリング、アセスメントの視点を含んだケアに取り組み、週1回のミーティング(カンファレンス)で総括的に把握して、プランニングの手順を踏んでいる。その上でご家族の説明責任を果たしている。	利用者、家族の意向を反映させ、介護記録から利用者の変化を読み取り、1週間ごとに看護師を交えて話し合い、医療関係者の意見や職員全員で検討して6か月毎に介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上、及び介護記録・職員申し送り書で実践。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者を生活者と位置づけ、その全体性に関わる努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この問題はグループホームの性格上、医療機関との関り程度である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則的にはこれまでの主治医を継続し、健康管理に努めている。遠方(他市町村)の場合は、通院時間等でご本人に体力的問題もあるため、町内の医療機関へ、ご家族、本人の希望を聞きながら変更している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。職員が付き添い結果を家族に報告している。(定期通院については、状況に変化がある時のみ報告している。)	

グループホーム ボランの家(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を受けているため、24時間オンコール体制が敷かれ、また出勤日をミーティング(カンファレンス)にしているため、報告と協議できるようにしている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は職員が頻繁に訪室し、現状を把握しながら、家族と共にムンテラを受け、医療情報を共有することに努めている。また施設機能の変更もあり得る為、所謂老人医療機関との関係構築には努力している。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族ケースワーク、主治医の病状説明や治療方法をとしこのことを実践している。	重度化や終末期に対しては入居時に事業所の出来る事と出来ないことを説明し利用者、家族の理解を得ている。重度化が認められた場合は本人、家族、主治医と協議し、希望にそえるよう医療機関と連携している。	重度化した場合や終末期のあり方については、事業所の方針を利用者、家族に説明し理解を得ているが、説明の都度、又は話し合いの都度、その結果を同意書にて家族の確認印を得る事を期待する。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会参加、急変時の対応など(看護師への連絡・救急車の手配)マニュアル化している。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練のほか、他福祉法人と一次避難、二次避難の協定を締結している。地域との連携はホットラインを敷いている。	避難訓練は年2回消防署の指導の下、夜間を想定して実施している。非常時には近隣住民の協力体制もできており、さらに管理者(法人代表)が役員を務める「余市グループホーム連絡協議会」では災害時の福祉施設間の協力体制が確立されている。				
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームの介護理念であるため、このことは職員がお互い注意を払い合い実践している。	事業所の介護理念でもあり、日々の生活の中で同性介助や言葉かけに気を配り、職員は勉強会を重ね一人ひとりの尊厳を損ねないケアに努めている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しい自己決定はなかなか困難であるが、ご本人の感覚を大切にしたいと考えている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も入居者の方たちの生活波長に合わせる努力をしている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	老いていく「疎外感」を軽減するため身だしなみには気を付けている。整容整容は認知症高齢者に対する尊厳性の保持であると考えている。					

グループホーム ポランの家(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も大事な日常生活なので、出来る限り皆で準備をし、食事が楽しくなるように努めている。メニューの嗜好もあるためサブメニューも想定している。	昼と夜の献立は委託した管理栄養士が作成し食材も宅配される。朝は利用者の希望を取り入れながら職員が献立を作成している。利用者の能力に応じ、調理、片付など利用者と共にやっている。栗ご飯、いくら丼など季節のメニューを取り入れたり、畑で収穫したアスパラ、長芋などが食卓を飾り、職員と一緒に食卓を囲んで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録しながら、栄養管理・健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる・不十分・できない、を見極めながら支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の中で、その方のパターンを把握し不快状態の軽減、排泄に係る尊厳性の保持に努めている。	個々の排泄パターンを排泄記録や表情、態度などから把握し、尊厳を傷つけないようにさりげなく誘導し排泄の自立に繋げている。便秘にならない様に気を付け、オムツではなくパットを使用するなど支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録の中で、下剤等の調整をしている。個々に乳酸菌飲料を飲むなど工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調・気分に合わせてながら入浴して頂いている。	週2回以上の入浴を支援している。利用者の体調や気分を大切に毎日3人位入浴を実施し、異性介助に抵抗のある利用者には同性介助を行い、入浴が心身共にくつろげる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人間のバイオリズムを考え、一日の流れを考えている。例えば「黄昏時」にはテンションの高いアクティヴは避けるように。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に薬が変更になったような場合、その変化について十分観察するように努めている。(眠気、ふらつき、表情等々)。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から、メリハリのある生活はその人にとっては何なのか理解し、実践している。そしてまたその方への称賛的態度も大切であると考えている。		

グループホーム ポランの家(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ただ単に外に出かけるばかりでなく、地域の方と交流できる場(例えば歌声喫茶等)に出かけるように努めている。	日光浴を兼ねて畑のとまとなどを収穫したり、夏には散歩をしながら近くの海を見に行き、通院の帰りに梅の花、リンゴの花を見に行ったり、地域の歌声喫茶で交流したり、利用者の高齢化や重度化に伴い外出が困難な場合でも野外で花火を楽しむなどの機会を作って日常生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使うか使わないかは別として、お金を持っているという安心感を考え、小銭の入った財布は大方の人が持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の保障、人権という考え方で支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	このことに対する認識は入居者の方への尊厳性であるとも考えている。そのため、リビングの陳列、展示の充実に努めている。心地良い環境は心地よい精神状態をつくると考えている。	食堂と居間を取り囲むように各居室があり、居間の壁には職員がクラフトデザインし利用者と職員が折り紙で作った作品(アジサイ、バラ)が飾られ家庭的な雰囲気である。玄関にはさりげなく季節の花が飾られ、共用空間は温度や湿度も調整され、清潔で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングサポートの中で、落ち着いた場所を重視している。さりげなく新聞等が置いてある等々の気配りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は家族的安定欲求の一つであるため、居室での移動性の安全も考えながら和む空間作りに努めている。	使い慣れた家具や好みの生活用品を持ち込み、壁には家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるその人らしい居室になっている。職員は利用者の身体状態により危険が無いように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考えながら、認知症の方一人ひとり夫々に使い勝手が良いように工夫している。		